

1 学年 国語科「なりきり詩を書こう」指導略案

単元・題材名	なりきり詩を書こう	生 徒	生活家庭科 1 年生徒 6 名
		場 所	1 年生活家庭科教室
日 時	平成 27 年 10 月 28 日（水） 5 校時	指 導 者	T1：能代 T2：今野 T T3：藤倉 T
単元の全体目標	○ なりきり詩を書くことで、物を大切にする気持ちや相手を想う気持ちを育てる。		
本時の目標	○ 想像したことを文章で書くことができる。 ○ 仲間と協力して一つの詩をつくることができる。		
協同学習の観点	①「 <u>互恵的な相互依存性</u> 」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「 <u>個人の責任</u> 」 ④「 <u>ソーシャルスキル</u> 」 ⑤「 <u>チームのふりかえり</u> 」		

過程 時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 (5 分)	挨拶 前時の復習 本時の学習	○ 日直にあわせて挨拶をする。 ○ 先週の振り返りをする。 ○ アイスブレイク ○ 今日の学習について知る。	○ ファイル、プリントを見返してもよいことを伝え、発言を促す。 ○ 口頭で説明し、プリントを配る。 ・説明ののちプリントを配布するが、机上が雑然としていたら整理を指示する。（前時までのプリントはしまう）	○プリント
展開① (15 分)	詩を書く	○ プリントに名前を書く。 ○ タイトルを考える。 ○ 自分の好きな物になりきって書く（例：猫、ピアノ、マガモなど）	○ 詩を書くことを伝え、たとえの詩を読む。 ○ ルールを伝える。 ①人を不快にさせる表現 ②とにかくなりきる。 ○ 迷っている生徒がいたら興味があることから、いくつかあげて、決めさせる。 A、B：今野 C、D、E：能代 F：藤倉	○プリント
展開② (15 分)		○ <u>全員で一つの詩を書くことを知る。</u> ・一人一文書く。 ○ <u>ホワイトボードのまわりに集まって、活動を行う。</u>	○ 全員で書くタイトルを伝える。 ○ 書けない場合は、助言する。	○ホワイトボード ○ペン
整理 (3 分)	まとめ 次回予告 挨拶	○ 詩を作成しての感想を発表する。 ○ 次回の授業内容を知る。 ○ 日直は挨拶を行う。	○ この授業を行った、意図を説明する。 ・物を大切にする ・相手の気持ちを考えられること ・学校祭で何かになりきることを感じてほしいから。 ○ 日直を指名する。	

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	国語「なりきり詩を書こう」	生徒	生活家庭科生徒6名
		場所	生活家庭科1年生教室
日時	平成27年10月28日(水)5校時	授業者	能代 麻衣子
国語の時間に、自分の好きなものになりきって詩を書く活動を行った。第一段階として、個人でなりきり詩を行った。個人では自分の好きなものを選んで書いたため、スムーズに書くことができた。一部の生徒が想像することが苦手で支援が必要ではあったが、生徒の考えを導き出すヒントの出し方を工夫するなど改善していきたい。 第2段階はホワイトボードを使って全員で一つの詩を書く活動を行った。観点③の個人的な責任に関しては、一人一人が一生懸命考えて文章を導き出そうとはしていたが、一部の生徒が意見や案を出すことが多く、全生徒が平等に授業の活動を行うことができなかった。集団から遅れている生徒への支援についてもう少し工夫が必要だった。 今後は生徒に合った題材を考えるとともに、クラスの生徒全員がチームとして一つのものを作りあげられるような、テーマやで学習を進めていければ良いと思う。言語活動の充実として、日常生活に即した話し合い活動などを取り入れていきたい。			

1 学年 国語「物語を作ってみよう 2」学習指導案

単元・題材名	物語をつくってみよう 2	生 徒	農業科 1 年生徒 8 名
		場 所	農業科 1 年教室
日 時	平成 27 年 10 月 28 日（水）5 校時	指 導 者	T1：村瀬 T2：工藤
単元の全体目標	○ 物語の作成を通して、1 つのことを協力して作り上げることができる力を育てる。		
本時の目標	○ 適切な接続詞を選択し、文をつなげることができる。 ○ 仲間と話し合いながら、一つの物語を作ることができる。		
協同学習の観点	①「互恵的な相互依存性」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「 <u>個人の責任</u> 」 ④「ソーシャルスキル」 ⑤「チームのふりかえり」		

過程 時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 (5 分)	挨拶 前時の復習 本時の学習	○ 日直に合わせて挨拶をする。 ○ 以前の授業で作った物語を振り返る。 ○ 今日やることを知る。 ○ グループごとに分かれて、座席を移動する。	○ 姿勢を正しているか確認する。 ○ ファイルやプリントを見返して良いことを伝える。 ○ 口頭で説明し、プリントを配布する。 ○ グループを伝える。 グループ 1：A、B、C、D グループ 2：E、F、G、H	○ 国語のファイル ○ プリント
展開 (35 分)	ものがたりを書く	○ 物語を作る方法を知る。 ○ <u>4 人で物語の作成をする。</u> ○ <u>グループごとに発表をする。</u>	○ 物語を作るためのルールを伝える。 ・ 4 人で 1 つの物語を完成させる。 ・ 自分の書く番号を知る。 ・ 1 番の人から順に物語を考える。 ・ 接続詞を使って、文をつなげていく。 ・ 人を中傷するようなことは書かない。 ○ 迷っている生徒がいるときは、文のつなげ方や適切な接続詞の選び方を助言する。 ○ 担当した部分の文を読んで発表を行うよう伝える。	○ プリント
整理 (5 分)	まとめ 挨拶	○ 物語を作った感想を言う。 ○ 日直に合わせて挨拶をする。	○ 誰か一人が頑張るのではなく、全員で協力することで、よいものを作り上げられることを伝える。 ○ 学校祭でも、同じように全員で協力することを促す。 ○ 姿勢を正しているか確認する。	

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	国語「物語をつくってみよう」	生徒	農業科1年生徒8名
		場所	農業科1年教室
日時	平成27年10月28日（水）5校時	授業者	村瀬 はるな
国語の時間に、2度目となる物語をグループで考える授業を行った。必ず一人1文考えること、話し合いながら物語の展開を考えていくことを中心に授業を進めたところ、全員が授業に参加し、役割を果たすことができた。お互いのグループの話を聞いて、話の内容がよかったところや発表の仕方で工夫していたところなどを伝えあうことで他のグループを意識しながら活動を行うことにつながった。しかし、よかったところを生かして次の活動につなげることができていないため、相手のいいところを生かすことができていない状態で終わってしまった。 今後は、一人一人が役割を持ちながら仲間と活動すること、お互いの作品を見て取り入れたいこと、参考にしたいことを伝えあう、さらに見たものを生かすためにもう一度同じまたは似たような活動を行うというサイクルを授業内で行うようにしていきたい。授業内でもPDCAを入れることで、生徒同士での活動の中で、もっとこうしたい、次はどうしたらよいかを考えながら取り組み、言語活動が活発になるのではないかと考える。国語として、書くこと、話すことを重視し、コミュニケーションにつなげられるように、授業を改善していきたい。			

平成 27 年度 産業科 2 年 作業学習指導略案

[illegible]

記錄

A		E	
B		F	
C		G	
D		H	

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	作業学習「学校祭の生產品を作ろう」	生徒	産業科2年生徒7名
		場所	窯業室
日時	平成27年11月5日(木)5・6校時	授業者	初山 小枝子
これまでの作業学習の時間に生徒同士で確認し合ったり、教え合ったりする場面を多く設定してきたので、とまどうことなく取り組む様子が見られた。生徒同士で確認し合ったり、教え合ったりすることで、気をつけるポイントをお互いに意識して作業することができたと思う。しかも、誰かに何かを教えるためには自分だけわかっていけばよいのではなく、内容を整理して伝えなくてはいけないので、メモを整理する必要性も実感させることができた。またペアやグループにしたことで、個人の責任だけではなく、仲間と協力して仕事しているという意識にもつながったのではないかと考える。 ただ、ペア同士やグループ内で適切なコミュニケーションをとり、協力して仕事に取り組むという目的は達成できたものの、他のグループの様子を見て、適切な判断をして行動することまでは至らなかった。また予定より早く仕事が終わってしまったため、急遽別の仕事を増やしたが、生徒の判断ではなく、教員の指示で動くことが多い結果となった。これからは、ただ指示を待つだけではなく、予定していない仕事内容でも自分から仕事を探せるように場面に応じた助言を増やしていく。今後も、生徒同士が同じチームで仕事をしているという意識を育てられるよう工夫しようと思う。			

1 学年 L H R 「学級展示」 学習指導案

単元・題材名	学級展示	生 徒	産業科 1 年生徒 7 名
		場 所	格技場
日 時	平成 2 7 年 1 1 月 1 0 日（火） 2 校時 （ 9 時 4 0 分～ 1 0 時 1 5 分）	指 導 者	T1：高山 T2：石黒
単元の全体目標	○ 学級展示を完成することができる。		
本時の目標	○ 話し合いをしながら、写真撮影を行うことができる。 ○ 役になり切って、表現することができる。		
協同学習の観点	①「互恵的な相互依存性」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「 <u>個人の責任</u> 」 ④「ソーシャルスキル」 ⑤「チームのふりかえり」		

過程 時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 (3 分)	挨拶 前時の復習 本時の学習	○ 日直に合わせて挨拶をする。 ○ 前時の確認をする。 ○ 今日の学習について知る。 ・ 写真撮影を行うことを知る。 ・ そのための手段や約束を知り、実践する。 ・ ストーリーとチームを知る。	○ 日直に挨拶を促す。 ○ 口頭で確認を行う。 ○ 今日の学習についての説明を行う。 ・ 写真撮影を行うこと。 ・ 学ランに着替えること。 ・ 役になりきること。 ・ ストーリーやチームを伝える。	○ ストーリーの一覧 ○ メンバーの一覧
展開 (30 分)	着替え <u>写真撮影</u>	○ 着替えを行う。 ○ <u>写真撮影を行う。</u> 【A・B・C】 【D・E・F】 【G】 ・ 1 場面からの撮影を行う。並び順などは、相談して決定する。	○ 準備を行う。 ・ 更衣補助。 ・ 撮影の準備。 ○ 写真撮影を行う。 ・ 大まかなストーリーの流れは、教師が設定したもので撮影を行う。 ・ 生徒同士が相談し合い、良い意見は取り入れ、撮影を行う。 ・ T 1 は、相談の促しなどの進行。 ・ T 2 は、撮影を主として行う。	○ 学ラン ○ カメラ ○ 本（7 冊）
整理 (2 分)	まとめ 次回予告 挨拶	○ 進行状況を確認する。 ○ 次回の予告を知る。 ・ 放課後、学級展示の続きを行うことを伝える。 ○ 日直に合わせて挨拶をする。	○ 進行状況を伝え、確認を行う。 ○ 次回の予告をする。 ・ 放課後に、学級展示の続きをコンピュータ室で実施することを伝える。 ○ 日直に挨拶を促す。	

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	LHR「学級展示」	生徒	産業科1年生徒7名
		場所	格技場
日時	平成27年11月10日（火）2校時	授業者	高山 愛望

①協同学習を意識した授業実践を通して、よかったところ、改善すべきところ。

学校祭に向けて、学級展示の制作を行った。本学級は「私服・コスプレ写真」「自己紹介」「クローズ」の3つを行うこととなり、本時では「クローズ」の写真撮影を行った。

撮影の流れを決めていたが、その場での生徒の意見を取り入れて行う予定であったことや撮影の順番に問題点があり、変更するためにSTと話し合う時間を確保したことで空白の時間ができてしまった。

3つの学級展示を作成するにあたり、生徒の希望に沿ったものを作成することになったのだが、生徒によっては意欲のバラつきが出てしまった。

②改善するための方法。

事前にSTとともに打ち合わせを行っていたが、模擬授業なども行い、空白の時間ができないような手立てを打つべきであった。

学習への意欲にバラつきが出ないようにするため、事前に全ての学級展示に向けての意欲付けを行うべきであった。

本時に向けての意欲付けだけではなく、全ての学習に向けての意欲付けや各授業の目標などの明確化も薄い部分が私自身の課題だと考える。そのため、日頃からの学習での準備などをしっかりと行っていきたい。

全学年 音楽科「フレンドリーライブ・学校祭に向けて」学習指導案

単元・題材名	全校合唱	生徒	1～3年 全校生徒
		場 所	体育館
日 時	平成27年11月11日（水）7校時	指 導 者	T1：鐘ヶ江 T2：石田 T3：鈴木絢
単元の全体目標	○ フレンドリーライブ・学校祭に向けて、決められた歌を歌うことができる。		
本時の目標	○ 曲に合った声の大きさや強弱を意識しながら歌うことができる。 ○ 聴いている人・見ている人を考えた表現をすることができる。		
協同学習の観点	①「 <u>互恵的な相互依存性</u> 」 ②「対面的なやりとり」 ③「個人の責任」 ④「ソーシャルスキル」 ⑤「チームのふりかえり」		

過程 時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 (5分)	挨拶	○ 代表者に合わせて挨拶をする。 ・合唱時の隊形で整列する。	・T1が代表者を指名する。 ・T2は、分からない生徒を立ち位置に移動できるよう促す等の支援を行う。	・ホワイトボード
	前時の復習	○ これまで学んだことを復習する。 ・フレンドリーライブで歌う曲、学校祭で歌う曲を確認する。	・生徒に質問をしながら話を進める。	
	本時の学習	○ 本時の学習内容を知る。 ・学校祭で歌う3曲の練習をすること、曲が終わってからの移動の仕方を確認することを知る。 ・最後に、本番を想定して3曲通して発表することを知る。	・T1は、ホワイトボードを使って説明し、最後にわからないことがないか質問をする。	
展開 (35分)	発声練習	○ 発声練習を行う。 ・ <u>T1に指名された集団のみが、T1の後に続いて声を出す。</u>	・ <u>男子、女子、学年別など、声を出す集団を指定することで所属している一員としての意識を高める。</u> ・T1が率先して声を大きく出し、声を出しやすい雰囲気を作る。	・指揮台 ・ピアノ ・マイク
	合唱①	○ 「ひまわりの約束」を合唱する。 ・優しく歌う、強弱をつけるなど、T1の指示・指揮に合わせて歌う。 ・曲が終わると、合唱台の片付けをしながら、「アイヌロック」の隊形に整列する。	・曲の途中で区切るなど、細かく確認しながら歌う。また、T1は表現方法が視覚的にわかるように指揮を行う。 ・T2は生徒補助、T3はピアノ伴奏を行う。 ・T2は、立ち位置に移動できるよう促すなど必要に応じて支援を行う。	

	合唱②	○ 「アイヌロック」を歌う。 ・動きを確認しながら歌う。 ・<u>全体を2つのグループに分け、お互いの発表を見合う。</u> ・T1からの発問に対し、気付いたこと答える。 ・一曲を通して歌う。	・T1は、働く上で表現することの大切さや、見られ方について伝える。 ・<u>見る側の視点を持てるようお互いの発表を見る。</u> ・必要に応じて、互いの発表で良かったところや、改善点などを生徒に発表するよう促す。 ・T1は、“見られ方”、“見せ方”に関して再度説明し、発表に生かすよう伝える。	・楽器（ステージ上） ・マイク ・照明
	合唱③	○ 「T o g e t h e r」を歌う。 ・バンドを演奏する生徒は、ステージに上がり楽器をセッティングする。 ・歌う生徒は、各自配置につく。 ・動き方を確認しながら、2番から最後まで歌う。 ・曲が終わると、閉会式時の順にならぶようアナウンスが流れ、その後整列することを知る。整列順は「アイヌロック」時の隊形と同様とする。	・T2は、立ち位置に移動できるよう促すなど必要に応じて支援を行う。	・楽器 ・照明
	通し練習 （合唱）	○ 3曲を通して発表する。 ・これまで確認したことを踏まえ、本番を想定し1曲目から3曲目まで通して歌う。	・T1は、見に来てくれる方の“思い”について伝える。 ・STの支援は最小限にする。	
整理 (5分)	振り返り	○ 本時の振り返りを行う。 ・T1から感想を聞く。	・T1は、本時の取り組み等について感想を伝える。	
	次回予告	○ 次回の予告を知る。 ・総練習では、1曲目から閉会式まで指示や説明が無い状態で活動することを知る。	・総練習の流れについて説明を行う。 ・また、どのように取り組んで欲しいかを伝える。	
	挨拶	○代表者に合わせて挨拶をする。 ・T1に指名された生徒に合わせて、全員で挨拶を行う。	・T1が代表者を指名する。	

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	音楽	生徒	全校生徒
	「フレンドリーライブ・学校祭に向けて」	場所	体育館
日時	平成27年11月11日（水）7校時	授業者	鐘ヶ江 真知
学校祭特別日課の1校時に行っている合唱練習で授業研究を行った。対象は全校生徒だが、グループのつながりや責任感に重点を置いて授業を展開した。 授業では「ひまわりの約束」という合唱曲に取り組んだ。「ひまわりの約束」は、男子パートと女子パートの2部に分かれて歌う合唱曲だが、男子で一つ、女子で一つの輪を作り合唱を行った。同じパートの仲間の声を聴き、顔を見ながら歌うことで、安心感と横のつながりを意識して歌うことで、声を大きく出せるようになった。また、曲の中で強弱などの表現について指導したが、少人数で取り組むより同じパート（男子全員、女子全員）で取り組むことにより、みんなで同じことに取り組んでいることで歌いやすかったり、理解しやすかったり、生徒によっては力を抜きづらくなることも効果として表われた。結果的に、全員参加の時間を作ることができた。 今後も、生徒同士が責任感や安心感、生徒同士のつながりを感じ共有しながら表現活動ができるように、効果的なグループ活動を考えて実践していきたいと思う。			

1 学年 生活単元学習「大人って何だろう？」学習指導案

単元・題材名	大人って何だろう？	生 徒	生活家庭科 1 年 生徒 6 名
		場 所	生活家庭科 1 年教室
日 時	平成 27 年 11 月 24 日（火）5・6 校時	指 導 者	T1：岩城 T2：能代 T3：藤倉
単元の全体目標	○ 大人について考え、自分の言葉で発表することができる。		
本時の目標	○ 大人になるにつれ、求められることを理解する。（責任、思いやり、協力） ○ 大人になる自覚を高めることができる。		
協同学習の観点	①「 <u>互恵的な相互依存性</u> 」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「個人の責任」 ④「 <u>ソーシャルスキル</u> 」 ⑤「チームのふりかえり」		

過程 時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 (10 分)	挨拶 本時の学習	○ 代表者に合わせて挨拶をする。 ○ テレビを見て岩城の発問に答える。 ・大人と子どもの境界線はどこか？ ・大人について考えることを知る。	○ 代表者を募る。代表以外は合わせるように指示する。 ○ 答えに迷っている生徒には助言を与えるなどして発言を促す。	○PC ○テレビ ○プリント
展開 (70 分)	大人って何だろう？ 大人な対応をやってみよう	○ 大人についてのイメージを考える。 ・ <u>ペアになって大人についてのイメージを話し合う。</u> ・話し合ったことを発表する。 ○ 16歳18歳20歳でできること ・ <u>社会的に許可されていることについてペアになって考える。</u> ・考えたことを発表する。 ・岩城の説明を聞き、答えを確認する。 ○ 大人な対応を考えてみよう。 ・ <u>与えられたテーマについてどのように対応することがいいのかペアで考える。</u> ・ <u>考えた答えを演じてみる。</u>	○ ペアを伝え、お互いのイメージを出し合ったのち、グループで話し合った内容を発表するように説明する。 ○ 法律で認められていることを説明する ・16歳…バイクの免許、結婚、献血 ・18歳…カード所有、パチンコ、免許 ・20歳…飲酒、喫煙、社会的責任 *何でもできると生徒が誤解しないように注意して説明する。 ○ 日常的にみかけるトラブルをテーマにした短冊を配り、生徒に考えさせる。	ペア1 A&B C&E D&F ペア2 A&F C&E B&D ペア3 A&E C&D B&F
整理 (20 分)	まとめ 次回予告 挨拶	○ 大人について自分の考えを発表する。 ・大人だと思う人や行動を考えて発表する。 ○ これからも大人についての学習を続けていくことを知る。 ○ 代表者に合わせて挨拶を行う。	○ 今日学んだことを通して、大人についての自分の考えを自分の言葉では票することを伝える。発言内容を板書する。 ○ 大人についての整理を行う。 ・生徒の発言内容をかみくだいて説明する。普段の生活から意識していくことを伝える。	

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	生活単元学習「大人ってなんだろう？」	生 徒	1 年生活家庭科 生徒 6 名
		場 所	生活家庭科教室
日 時	平成 27 年 11 月 24 日（火）5・6 校時	授 業 者	岩城 研太
どこまでが子どもでどこからが大人なのか、生徒によって色々な考えを持っていることがわかった。教師間だけでなく、生徒同士もっと深めることができればよかった。また、大人として求められる行動とはどのようなものであるか、そのために普段からどのように意識して行動するべきか、などという今後の行動について考えさせる時間をより設けるべきであった。 ペアになったの学習は、自分の考えを相手に伝える。相手の考えに気付く。相手の考えを受け入れる。考えをまとめ上げる。などの効果があるので、今後も続けていきたい。 今回の授業を単発に終わらせることなく、色々な指導場面に取り入れたり、選挙権についての授業とも絡めていきたい。 改善点としては、S Tとの事前の打ち合わせの時間を十分にとること、理解が難しいと予想される生徒についてのサポート体制を共通理解すること、生徒の答えを引き出す発問の工夫、本時の学習内容の整理、ワークシートの活用などがあります。今後、授業を行う際に意識して改善していく。			

2 学年 国語「本を読もう」指導略案

単元・題材名	本を読もう	生 徒	2 年生 8 名 (産業科 5 名, 農業科 3 名)
		場 所	産業科 2 年教室
日 時	平成 2 7 年 1 1 月 2 5 日 (水) 2 校時	指 導 者	山田 みゆき
単元の全体目標	○ 簡単な本や物語を読み、音読や暗唱したり、内容を理解したり場面の様子を想像したりすることができる。		
本時の目標	○ 短い文章 (本) を読んで内容を理解し、それを推薦する文を書くことができる。		
協同学習の観点	① 「互恵的な相互依存性」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「 <u>個人の責任</u> 」 ④「ソーシャルスキル」 ⑤「チームのふりかえり」		

過程 時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 (10 分)	挨拶 前時の復習 本時の学習についての確認	○ 号令担当に合わせて挨拶をする。 ○ 前時の学習内容を復習する。 ・図書室で自分の読みたい本を探し、読む。 ・自分が選んだ本について「読書のすすめカード (仮)」を書く。 ○ 本時の学習内容を知る。 ・用意された文章について、おすすめポイントを書くことを知る。	○ 号令担当を確認する。 ○ 個別実習でいなかった生徒が多かったり、学校祭で授業がしばらくなかったり、時間がかかり経過したので、丁寧に確認する。 ○ 本時の学習内容を説明する。 ・用意された文章について、おすすめポイントを書き、効果的な文章の書き方を学習することを知る。	
展開 (30 分)		○ 配布された資料を読む。 【プリント①】 ○ おすすめポイント (おもしろい点) を、正しい言葉遣いや正しい漢字で書く。【プリント②の 1】 ○ <u>となりの人とペアになってお互いの文章を読み合い、表記の仕方、書く内容で、良い点 (A) と改良点 (B) を書く (自分の名前も記入する)。</u> 【プリント②の 2】 ○ 改良点を参考にして再度自分の文章を推敲する。【プリント②の 3】	○ 資料【プリント①】を配布し、内容を確認する。 ○ おすすめポイント (おもしろい点) を、正しい言葉遣いや正しい漢字で書かせる。 ○ ペアを指示し、お互いの文章を読み合い、表記の仕方、書く内容で、良い点 (A) と改良点 (B) を書かせる。その際、自分の名前も記入させる。 ○ 改良点を参考にして再度自分の文章を推敲させる。	○ プリント教材 ①資料 ②プリント ※①の資料は授業終了後に回収
整理 (10 分)	まとめ 次回予告 挨拶	○ 推敲し書き直した文章を発表する。 ○ 次時は、本時の学習を生かし、自分の選んでいた本についての「読書のすすめカード」を書くことを知る。	○ 推敲した文章を発表させる。 ○ 自分で選んだ本を読み終えていなければ、次時まで読み終えておくことを伝える。プリント①②を回収する。	

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	国語「本を読もう」	生 徒	2年生徒8名(産業科5 農業科3)
		場 所	産業科2年教室
日 時	平成27年11月25日(水)2校時	授 業 者	山田 みゆき
①授業実践でよかったところは、本時では共通の文章を用いて、全員が同じ文章についての「おすすめポイント」を書くように設定したことで、興味を持って取り組み、取り組みやすかった生徒が多くいたところです。また、提示した文章が短文だったのもあり、他者がプリントに記入してくれたアドバイスを参考にしながら、ほとんどの生徒が自分の書いた文章を推敲することができました。 反面、改善すべきところとしては、提示した文章の内容を理解するのに難しかった生徒もいました。 ②改善するための方法としては、生徒の興味・関心や理解のレベルに合った教材の選択に関して、もう少し検討が必要だったと考えました。また、口頭による指示だけでなく、板書にもポイントをしばってわかりやすく書くなどし、板書内容の工夫をすべきでした。			